

大阪大学発スタートアップ企業に対する日本政策金融公庫と連携した創業支援 ～ スタートアップ創出促進保証制度を活用した協調融資を実施 ～

大阪シティ信用金庫（本店 大阪市、理事長 高橋知史）と日本政策金融公庫大阪支店国民生活事業は、大阪大学発スタートアップ企業の株式会社 ayumo（本社 大阪市、代表取締役 桑田佳幸）に対し、スタートアップ創出促進保証制度（※）を活用した協調融資を実施しました。

同社は「歩行困難に悩む人々が早期に治療を受けられるための支援を行い、長く自分の足で歩ける健康社会をつくること」を目的に設立された、大阪大学と国立病院機構による研究シーズを活用した同大学発のスタートアップ企業です（事業概要 別紙参照）。

設立後、JETRO（日本貿易振興機構）が実施する海外展開支援を行うアクセラプログラム「GSAP（グローバル・スタートアップ・アクセラレーションプログラム）」に採択されたほか、令和5年11月に当金庫と大阪産業局が主催した「大阪ヘルスケアビジネスコンテスト」で最優秀賞を受賞するなど、多方面から高い評価をうけており、今後、国内外での活躍が期待されます。

当金庫は今後も日本政策金融公庫と連携し、地域金融機関としてスタートアップ企業を積極的に支援してまいります。

（※）スタートアップを促進し、創業機運を醸成する等の観点から、全国統一保証制度として、創業期の経営者保証を不要とする制度

【企業情報】

企業名	株式会社 ayumo	代表取締役	桑田 佳幸
本社	大阪府大阪市北区角田町8番47号 阪急グランドビル26階 FUTRWORKS		
ホームページ	https://ayumo.ai/	問い合わせ先	info@ayumo.ai

以上



本件はSDGs（持続可能な開発目標）の考えに基づいた取り組みのうち、右記の目標に寄与するものです。



事業概要

同社は、独自の深層学習モデルを活用した歩容認証による疾患鑑別技術により、医療領域とヘルスケア領域で事業開発を進めている。医療領域においては、病院やクリニックにおける疾患診断支援サービスを目指しており、ヘルスケア領域では、介護施設やフィットネスジム等、中高齢者が集まる場所でロコモティブシンドローム（※）の状態を評価し、適切なソリューション（運動プログラム等）の提供を目指している。

（※）ロコモティブシンドロームとは、平成19年に日本整形外科学会が提唱した概念であり、年齢を重ねることによる筋力の低下、関節や脊椎などの病気の発症により運動器機能の低下した状態であり、ロコモの人口は予備軍も含めて4,700万人とされている。



図1. 同社が掲げる Mission, Vision

○同社のヘルスケア領域サービス概要



図2. ヘルスケア領域サービス

- ・上記プログラムでは、汎用カメラで被験者の歩行動画を撮影し、抽出した特徴量を独自の深層学習モデルで演算することで、運動器の問題部位・重症度、及び歩行パラメータを出力。
- ・当プログラムを搭載したハードウェアを中高齢者が入居する施設へ提供し、運動機能を定期的に評価し、適切な対応（運動プログラム等）とセットで提供することで、入居する施設の介護・作業負担軽減や利用者満足度の向上に貢献することを目指している。